

(学年) 1年次、(教科・科目) SS・SA

一斉学習

(単元) SA 模擬発表会

(本時のねらい)

地域創生に関連する地域課題について、課題研究に取り組み研究成果を発表することで、クラス内の成果を共有することで、情報をわかりやすくまとめ、表現する力をつける。

(ICT活用方法)

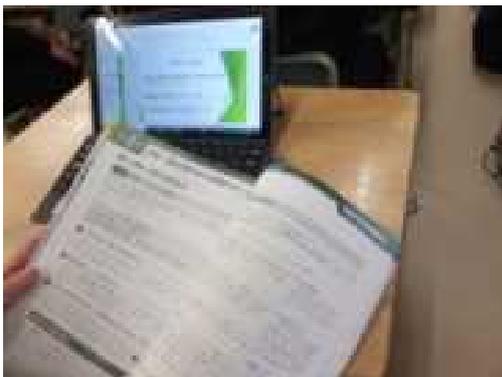
研究成果を視覚的にも効果的に発表するために、電子黒板を用いて3～4名で構成される各グループが作成したプレゼンテーション資料を投影する。プレゼンテーション資料は電子黒板に映した際に見やすい文字の大きさや、1枚の画面に載せる文字量、グラフと写真の数やアニメーションの効果などを精選して作成するように、事前に指導しておく。

プレゼンテーションを作成して活用することにより、各グループが力を入れて説明したいポイントを押さえて発表することができる。

(本時の展開) 50分×3時間で指導している。

時間	学習活動	指導事項	I C T活用方法
導入 5分	・本時の流れについて確認する。	・発表の仕方や聞く態度について確認する。	
展開 140分	・生徒が主体的に発表したり、質問したりする。 ・クラスメイトからのアドバイスシートの概評得点の平均点を記入する。	・電子黒板で投影し、視覚的にも効果的に発表させる。 ・本時のループリックを電子黒板で提示し、留意点を伝えながら自己評価させる。	・電子黒板に各自の一人一台端末からプレゼンテーションを投影し、発表する。またオンラインで、外部講師からの指導も仰ぐ。 ・教師用の画面を共有し、書き込みながら説明する。
まとめ 5分	・本時の内容を確認する。	・概要を評価する。	

(授業の様子)



一人一台端末とテキスト



発表準備の様子



発表の様子 1



発表の様子 2

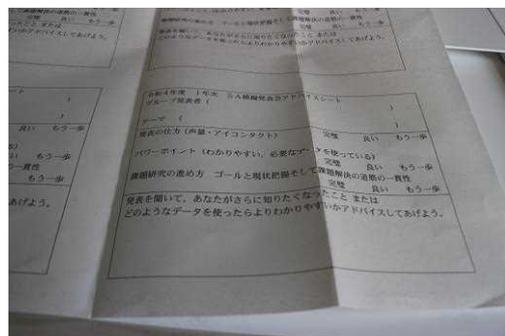
R.4 SAバージョンアップ 課題研究の評価内蔵 プリックシート

下の表を見て、課題研究について自分自身で記入しましょう。

	① (改善が必要)	② (もう少し)	③ (おむね満足)	④ (大変よろしい)	理由
研究計画と実施	計画が途中で変更になったり、途中で中止になったりしている。	計画が途中で変更になったり、途中で中止になったりしている。	計画が途中で変更になったり、途中で中止になったりしている。	計画が途中で変更になったり、途中で中止になったりしている。	
資料・データの収集	資料・データの収集が不十分で、必要な資料・データが不足している。	資料・データの収集が不十分で、必要な資料・データが不足している。	資料・データの収集が不十分で、必要な資料・データが不足している。	資料・データの収集が不十分で、必要な資料・データが不足している。	
発表準備	発表準備が不十分で、発表当日に慌てている。	発表準備が不十分で、発表当日に慌てている。	発表準備が不十分で、発表当日に慌てている。	発表準備が不十分で、発表当日に慌てている。	
発表内容	発表内容が不明瞭で、聞き手が理解しにくい。	発表内容が不明瞭で、聞き手が理解しにくい。	発表内容が不明瞭で、聞き手が理解しにくい。	発表内容が不明瞭で、聞き手が理解しにくい。	
コミュニケーション	発表者同士のコミュニケーションが不十分で、協力し合っていない。	発表者同士のコミュニケーションが不十分で、協力し合っていない。	発表者同士のコミュニケーションが不十分で、協力し合っていない。	発表者同士のコミュニケーションが不十分で、協力し合っていない。	
グループ発表	グループ発表がうまくいかず、発表内容がまとまらない。	グループ発表がうまくいかず、発表内容がまとまらない。	グループ発表がうまくいかず、発表内容がまとまらない。	グループ発表がうまくいかず、発表内容がまとまらない。	
感想など					

HERNO () 上成 ()

評価用ルーブリックシート



アドバイスシート

(生徒の反応と課題、改善を要する点)

生徒は、一人一台端末を積極的に利用し、活発な発表を行った。プレゼンテーション作成時間の短縮により、リハーサルに時間が割ける利点が出てきた。Web 会議サービスでの画面共有をすることができるので、外部講師からのアドバイスも視覚的にわかりやすくていただくことができた。

教育クラウドプラットフォームを利用することで、担当教員が進捗状況を把握しやすくなり、個々の研究過程に応じたよりきめ細やかな指導が可能となった。

今年度よりプレゼンテーションソフトの「共有」を利用してより効率的に作成ができる

ようになった。また、いつでも保存したデータを確認できるので、データなどの修正や発表のための練習も時間を気にせず行えるようになり、研究から発表までの流れががかなりスムーズになった。

今後の展望として、次年度ICTを利用してのさらに深まりのある課題研究ができるように指導したい。生徒が教育クラウドプラットフォームでアンケートをとったり、独自でデータを作成できるようになるなど、さらなる高みを目指せるようにしたい。